



2021年11月 5 日

各 位

会 社 名	株式会社マナック・ケミカル・パートナーズ
代 表 者 名	代表取締役社長 村田 耕也
コ ー ド 番 号	4360 東証第二部
問 合 せ 先	経営企画室長 大村 元宏 (TEL) 03-5931-0554

### 上場廃止となった子会社（マナック株式会社）に関する決算開示について

2021年10月1日をもって完全子会社化したマナック株式会社に関する「2022年3月期第2四半期決算短信（2021年4月1日～2021年9月30日）」について、別紙のとおりお知らせいたします。

なお、株式会社マナック・ケミカル・パートナーズの2022年3月期連結業績予想及び配当予想につきましては、2021年10月1日公表の「2022年3月期連結業績予想及び配当予想に関するお知らせ」をご覧ください。

以 上



## 2022年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年11月5日

上場会社名 株式会社マナック・ケミカル・パートナーズ (マナック株式会社分) 上場取引所 東  
 コード番号 4360 URL https://mcps.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 村田 耕也  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営企画室長 (氏名) 大村 元宏 TEL 03-5931-0554  
 四半期報告書提出予定日 - 配当支払開始予定日 2021年11月26日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2022年3月期第2四半期の連結業績(2021年4月1日~2021年9月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第2四半期	4,869	15.6	226	△29.4	316	△8.5	246	0.4
2021年3月期第2四半期	4,213	△2.8	321	50.4	345	44.1	245	47.0

(注) 包括利益 2022年3月期第2四半期 241百万円(△39.1%) 2021年3月期第2四半期 397百万円(377.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第2四半期	31.36	—
2021年3月期第2四半期	30.51	—

(注) 上記はマナック株式会社の連結経営成績であります。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2022年3月期第2四半期	12,799	9,929	77.6	1,264.77
2021年3月期	13,056	9,765	74.8	1,243.95

(参考) 自己資本 2022年3月期第2四半期 9,929百万円 2021年3月期 9,765百万円

(注) 上記はマナック株式会社の連結財政状態であります。

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
2022年3月期	—	7.50	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	—	—	7.50	15.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2022年3月期第2四半期末の配当実績はマナック株式会社の配当実績であります。

3. 2022年3月期期末の配当予想は株式会社マナック・ケミカル・パートナーズの配当予想であります。

3. 2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

通期	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％	円 銭
	10,200	7.1	660	1.2	720	1.1	560	2.0	70.51

- （注）1. 直近に公表されている業績予想からの修正： 無  
 2. 上記は株式会社マナック・ケミカル・パートナーズの2022年3月期の連結業績予想（2021年4月1日～2022年3月31日）であります。

※ 注記事項

- （1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無
- （2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無
- （3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 有
  - ② ①以外の会計方針の変更： 無
  - ③ 会計上の見積りの変更： 無
  - ④ 修正再表示： 無

詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（会計方針の変更）」をご覧ください。

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数 （自己株式を含む）	2022年3月期2Q	8,625,000株	2021年3月期	8,625,000株
② 期末自己株式数	2022年3月期2Q	774,583株	2021年3月期	774,583株
③ 期中平均株式数 （四半期累計）	2022年3月期2Q	7,850,417株	2021年3月期2Q	8,034,141株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	3
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間 .....	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	7
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における国内経済は、新型コロナウイルス感染症の影響の長期化に伴う景気悪化が継続しており、依然として経済活動の回復には至っておらず厳しい状況にあります。世界経済につきましても、新型コロナウイルス感染症拡大による各国での経済活動抑制などにより、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような環境の下で当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、営業活動が制限されるなか、国内外の市場における顧客への取引深耕にグループが一体となり積極的に取り組んでまいりました。

その結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は4,869百万円(前年同四半期比+655百万円、15.6%増)、営業利益は226百万円(同△94百万円、29.4%減)、経常利益は316百万円(同△29百万円、8.5%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は246百万円(同+1百万円、0.4%増)となりました。

各セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

## ①ファインケミカル事業

ファインケミカル事業につきましては、前第2四半期連結累計期間は新型コロナウイルス感染症の影響による一部製品需要の鈍化があったものの、当第2四半期連結累計期間において需要が回復いたしました。

その結果、売上高は2,025百万円(前年同四半期比+480百万円、31.1%増)、セグメント利益は271百万円(同+25百万円、10.6%増)となりました。

## ②難燃剤事業

難燃剤事業につきましては、前第2四半期連結累計期間は新型コロナウイルス感染症の影響による消費減退傾向が表れたことにより家電製品等に使用されるプラスチック用難燃剤の需要が鈍化いたしました。当第2四半期連結累計期間において需要が回復いたしました。

その結果、売上高は2,220百万円(前年同四半期比+292百万円、15.2%増)、セグメント利益は358百万円(同+53百万円、17.6%増)となりました。

## ③ヘルスサポート事業

ヘルスサポート事業につきましては、人工透析用原料は安定した国内需要を維持いたしました。また、国内における新型コロナウイルス感染症拡大の影響から、広島大学と共同開発(特許取得)し製品化した固定化抗菌剤「Etak®」の需要が、前第2四半期連結累計期間は大幅に増加いたしました。当第2四半期連結累計期間においてはその需要が若干落ち着いたことにより、売上高、セグメント利益とも前年同四半期比で減少いたしました。

その結果、売上高は624百万円(前年同四半期比△117百万円、15.8%減)、セグメント利益は115百万円(同△111百万円、49.0%減)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて256百万円減少し、12,799百万円となりました。これは主に、売上債権が減少したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて419百万円減少し、2,870百万円となりました。これは主に、設備未払金が減少したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて163百万円増加し、9,929百万円となりました。これは主に、利益剰余金が増加したことによるものであります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2022年10月1日の「2022年3月期連結業績予想及び配当予想に関するお知らせ」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,651,717	1,842,546
受取手形及び売掛金	3,042,999	2,882,437
電子記録債権	312,576	291,968
金銭の信託	500,000	—
商品及び製品	1,146,406	1,187,476
仕掛品	385,937	440,610
原材料及び貯蔵品	408,100	526,475
その他	165,445	143,644
貸倒引当金	△3,002	△3,002
流動資産合計	7,610,181	7,312,157
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	583,253	642,898
機械装置及び運搬具(純額)	570,864	1,136,512
土地	906,596	906,596
建設仮勘定	780,597	92,049
その他(純額)	137,375	172,302
有形固定資産合計	2,978,687	2,950,359
無形固定資産		
リース資産	234,253	235,945
その他	3,910	3,669
無形固定資産合計	238,163	239,615
投資その他の資産		
投資有価証券	2,023,195	2,051,897
繰延税金資産	7,324	6,792
その他	198,517	238,945
投資その他の資産合計	2,229,036	2,297,635
固定資産合計	5,445,887	5,487,610
資産合計	13,056,069	12,799,768

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2021年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	1,423,641	1,619,386
短期借入金	329,217	328,082
未払法人税等	153,403	64,201
賞与引当金	162,572	167,356
その他	1,116,820	619,214
流動負債合計	3,185,656	2,798,240
固定負債		
長期借入金	1,400	—
役員退職慰労引当金	54,729	7,700
繰延税金負債	10,928	29,876
その他	37,846	34,947
固定負債合計	104,903	72,523
負債合計	3,290,559	2,870,764
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,757,500	1,757,500
資本剰余金	1,985,492	1,985,492
利益剰余金	6,289,806	6,457,469
自己株式	△536,039	△536,039
株主資本合計	9,496,758	9,664,421
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	271,081	264,861
繰延ヘッジ損益	△698	△130
為替換算調整勘定	△1,631	△148
その他の包括利益累計額合計	268,750	264,581
純資産合計	9,765,509	9,929,003
負債純資産合計	13,056,069	12,799,768

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
売上高	4,213,488	4,869,367
売上原価	3,163,904	3,804,726
売上総利益	1,049,584	1,064,641
販売費及び一般管理費	728,523	838,092
営業利益	321,060	226,548
営業外収益		
受取利息	93	398
受取配当金	18,283	19,847
為替差益	—	78
受取ロイヤリティー	2,523	2,017
助成金収入	—	28,180
保険解約返戻金	—	30,234
その他	7,023	11,970
営業外収益合計	27,923	92,728
営業外費用		
支払利息	1,468	1,073
為替差損	505	—
その他	1,034	1,500
営業外費用合計	3,008	2,573
経常利益	345,975	316,702
特別利益		
投資有価証券売却益	11,403	5,664
特別利益合計	11,403	5,664
特別損失		
固定資産除却損	6,945	62
固定資産売却損	1,411	—
投資有価証券売却損	4,072	1,424
特別損失合計	12,429	1,487
税金等調整前四半期純利益	344,949	320,879
法人税、住民税及び事業税	99,160	52,758
法人税等調整額	676	21,953
法人税等合計	99,836	74,712
四半期純利益	245,113	246,167
親会社株主に帰属する四半期純利益	245,113	246,167



(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
四半期純利益	245,113	246,167
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	152,164	△6,220
繰延ヘッジ損益	△682	568
為替換算調整勘定	630	1,482
その他の包括利益合計	152,111	△4,169
四半期包括利益	397,224	241,998
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	397,224	241,998
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	344,949	320,879
減価償却費	137,437	221,430
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,013	4,783
受取利息及び受取配当金	△18,377	△20,246
支払利息	1,468	1,073
有形固定資産除売却損益(△は益)	8,356	62
投資有価証券売却損益(△は益)	△7,330	△4,239
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	—	△47,029
売上債権の増減額(△は増加)	710,041	181,789
棚卸資産の増減額(△は増加)	△303,134	△214,117
仕入債務の増減額(△は減少)	△230,892	193,247
その他	△8,247	△118,735
小計	636,284	518,899
利息及び配当金の受取額	18,386	20,256
利息の支払額	△1,468	△1,073
法人税等の支払額	△72,925	△140,673
営業活動によるキャッシュ・フロー	580,277	397,407
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	△205,000	—
定期預金の払戻による収入	205,000	—
有形固定資産の取得による支出	△419,748	△571,837
投資有価証券の取得による支出	△139,190	△146,570
有形固定資産の売却による収入	200	—
投資有価証券の売却による収入	121,955	113,239
金銭の信託の解約による収入	1,200,000	200,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	763,216	△405,169
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	65,322	11,994
長期借入金の返済による支出	△76,642	△14,530
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△12,734	△19,363
自己株式の取得による支出	△340,010	—
配当金の支払額	△60,687	△78,504
財務活動によるキャッシュ・フロー	△424,751	△100,403
現金及び現金同等物に係る換算差額	△627	△1,005
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	918,115	△109,170
現金及び現金同等物の期首残高	972,066	1,946,717
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,890,181	1,837,546

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。これにより、商品販売における収益について、従来は顧客から受け取る対価の総額を収益として認識しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、顧客への商品の提供における当社の役割が代理人に該当する取引については、顧客から受け取る額から商品の仕入先に支払う額を控除した純額で収益を認識する方法に変更しております。また、営業外費用に計上していた売上割引については売上高より控除しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高が19,441千円、売上原価が18,956千円、営業外費用が484千円それぞれ減少したことで、売上総利益及び営業利益が484千円それぞれ減少しておりますが、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響はありません。

(セグメント情報)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自2020年4月1日至2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	ファインケミカル事業	難燃剤事業	ヘルスサポート事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	1,544,765	1,927,561	741,161	4,213,488
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	1,544,765	1,927,561	741,161	4,213,488
セグメント利益	245,704	304,905	227,216	777,825

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	777,825
全社費用(注)	△456,764
四半期連結損益計算書の営業利益	321,060

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用等であります。

II 当第2四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			
	ファインケミカル事業	難燃剤事業	ヘルスサポート事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,025,015	2,220,308	624,043	4,869,367
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—
計	2,025,015	2,220,308	624,043	4,869,367
セグメント利益	271,639	358,499	115,991	746,130

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	746,130
全社費用(注)	△519,582
四半期連結損益計算書の営業利益	226,548

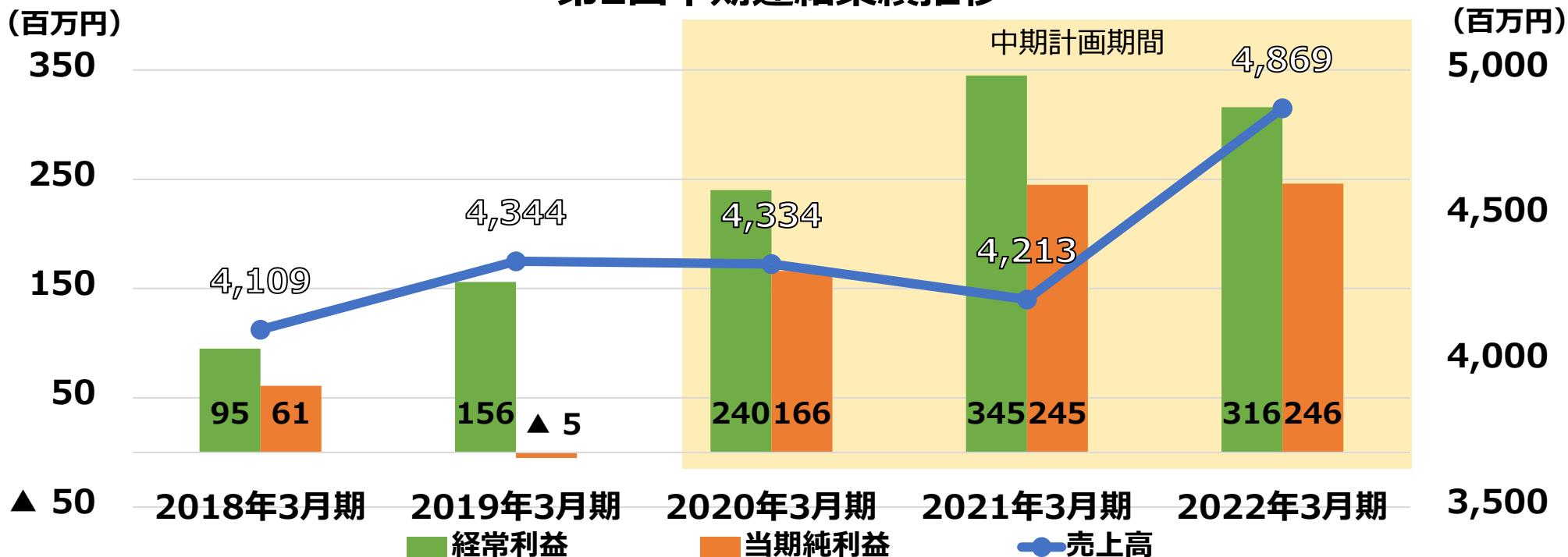
(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない当社管理部門に係る費用等であります。



MCPs

# 2022年3月期第2四半期の業績状況（連結）

## 第2四半期連結業績推移



2022年3月期第2四半期の業績影響といたしましては、ヘルスサポート事業では新型コロナウイルス感染症による需要減少が現れ始め、感染予防効果を発揮する固定化抗菌剤「Etak®」の販売状況が昨年度より落ち着いてきました。一方、難燃剤事業では需要が昨年度より伸びており、ファインケミカル事業でも半導体関連の化合物需要が伸びています。

こういった要因を加味した上、**通期では2021年10月1日開示した業績予想（中期計画最終年度）を達成できる水準**だと考えており、引き続きグループ全体で中期計画に掲げる目標の達成に挑戦してまいります。

# CSR活動の状況（マナック株式会社）

## EcoVadis社の調査で 「シルバー」評価を取得

国際的なサステナビリティ調査機関EcoVadis社による2021年のサステナビリティ評価において、マナックが「シルバー」評価（上位25%）を取得しました。とくに「**環境**」の項目について高評価を得ております。

## パートナーシップ 構築宣言への賛同

内閣府等が推進する「パートナーシップ構築宣言」の趣旨に賛同し、お取引先様と適正な取引条件を構築するとともに、サプライチェーン全体の共存共栄に努めてまいります。

## 購買方針の公開

マナックでは、社会、環境、人権に配慮した責任ある調達活動を行っております。

詳細内容はホームページにてご確認ください。

